

京都社保協事務局通信

42期-第5号 2021.1.25

京都市中京区壬生仙念町 30-2 ラポール京都 6F

TEL 075-801-2526 Fax 811-6170

mail:shahokyo@labor.or.jp

http://kyotosyaho.web.fcc.com

学生も、労働者も支援が必要 連帯ひろば・なんでも相談会開催

北区食プロ99人、左京食プロ85人、乙訓相談会10人

昨日は、青年団体・地域の民主団体・市民団体・労働組合・社保協などが各地で「食材プロジェクト」「なんでも相談会」に取り組みました。いずれも、小雨の中、会場案内のプラカードを持って案内をしたり、相談に来られた方に丁寧に話に乗ったり、さまざまな分野の相談を受けるなど、熱い取り組みとなりました。すでに各地域で寄せられた切実な訴えを一つひとつ解決するための努力も始まっています。

○北区では、千北食糧支援プロジェクト主催で、食料の無料提供・生活相談が取り組まれました。参加者は99人。ある学生さんは「バイトがなくなり、生活が苦しい。あっちこっちの食料支援を利用させてもらって助かっています」。通りがかりの留学生は、「おおっ、言い取り組みですね。ぜひ、手伝わせて!」と、看板を首にかけ、チラシを一人ひとりに配布。スタッフは「いろんなドラマがあるなあ」と感激。



○左京は、左京連帯ひろば実行委員会・左京社保協の主催で、食料提供・生活相談・アンケートに、午前と午後、2会場で取り組みました。午前中は50人に食料提供し、アンケートは25人に協力していただき、午後は35人に食料提供し、アンケート協力は28人でした。来られた方の中には「いまは雇調金で、月12万ぐらいもらっているが、それもギリギリ。いつまでもつか」「会社は(手続きがめんどう

なのか)雇調金を申請してくれない」「コロナの濃厚接触者で休んだ場合には休業手当は出さない」など違法な対応に対する告発もありました。

○乙訓社保協は、電話相談会に取り組み、地域の弁護士・司法書士・社会保険労務士・税理士・ケアマネなどの専門家の協力を得て、10人の電話相談に取り組みました。相談は、それぞれ深刻な事例も多く、介護や相続など、幅広い相談がありました。

